



「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。おとめイスラエルよ。わたしは再びあなたを建て直し、あなたは建て直される。(エレミヤ 31:3~4)」



エターナル・ラブ・イスラエルは、日本国内でユダヤ人に福音を伝える働きです。

- 事務局：〒226-0014 横浜市緑区台村町 186 番地 TEL:090-8729-0856
- メール：eternalloveisrael@gmail.com ●ホームページ：<http://eli.holy.jp>
- 銀行口座：三菱東京UFJ銀行 武蔵新城駅前支店 普通預金 0909009 エターナル・ラブ・イスラエル
- 郵便振り込み：00200-9-79214 エターナル・ラブ・イスラエル



代表：宮本 純子

☆事務所移転のお知らせ☆



(1階は、カフェ)

ハレルヤ！主の聖名を心から賛美いたします。
愛するみなさま。いつもお祈りと尊い献金でエターナル・ラブ・イスラエルを支えてくださり心から感謝致します。

私は、エターナル・ラブ・イスラエルに事務所が与えられるように2年以上ずっと祈っていました。事務所の賃貸も考えましたが、費用が安くて最善な方法に導いてくださるように祈り続けました。そして、祈りが聞かれたのが6月です。

「まちなか biz みどり」という地域のビジネスコミュニティから「起業家の集まりですが、会員になってみませんか。事務所は、共同ですが、一緒にやっていきましょう。」と、誘われ、導かれました。

私は、地域に根ざした市民活動や自治会、地域のコミュニティを大切にしています。クリスチャンとして交わることが伝道につながるからです。「まちなか biz みどり」は、様々な職種の起業家の集まりです。政治家、建築業、税理士、司法書士、葬祭、結婚式のメイク、ハンドメイド、ソプラノ歌手など様々な会員のコミュニティです。

エターナル・ラブ・イスラエルは、まちなか biz みどり国際部の一員となりました。違う職種であっても、何か困ったことがあればお互いに相談し合い、助け合う会です。共同ではありますが、無料同然のかなり安い価格で事務所が借りられ、多くの仲間が与えられました。祈りを聞いてくださり、人智をはるかに超えて、最善に導いてくださる神様に心から感謝致します。



(3階は、事務所兼レンタルスペース)

【事務所移転のお知らせ】

この度、エターナル・ラブ・イスラエルは、神様の素晴らしいお導きにより新しい事務所が与えられ、移転する運びとなりました。下記に新住所をご案内申し上げますので、よろしくお願い申し上げます。

【事務所の新住所】

〒226-0014 神奈川県横浜市緑区台村町 186 番地 エターナル・ラブ・イスラエル

☆イスラエルレストラン シャマイム☆



春に開催されたイスラエル大使館主催【イスラエル料理レストランへご招待！「テルアビブの乗り物、日本へ」写真コンテスト】で優秀賞に選ばれました。その賞品として、イスラエルレストラン「シャマイム」（西武池袋線 江古田駅南口徒歩1分）の食事券ペアチケットを頂きました。

7月、十数年ぶりに「シャマイム」に行きました。店内は、あまり変わっていないので、懐かしかったです。コロナ対策も万全でした。

お食事券は、おまかせ食べ放題メニューでした。イスラエル料理は、ボリューム満点で美味しく、野菜がたっぷりなのでヘルシーです。本場のイスラエルの味を美味しく堪能できて、幸せな時間を過ごしました。

コロナ禍なので、テイクアウトのお弁当やホームメイドペースト（フムス、テヒナ、ファラフェルペーストなど）、スパイシーサラダなども販売しています。

月末の金曜日には、本格的なベリーダンスもあります。イスラエルの美味しいワインやビールなどのアルコール類もメニューにありますので、シャバット（安息日）の夕べには良いかもしれません。

イスラエルレストランには、多くのイスラエル人が訪れるので、ヘブライ語のトラクトを数種類、たくさん置かせて頂きました。

日本に滞在しているユダヤ人も私たちと同じように、コロナで不安な日々を過ごし、家で自粛していることと思います。そのような中で、ヘブライ語のトラクトを手にし、真のメシアと出会い、救われますように。ヘブライ語のトラクトを神様が豊かに用いてくださいますように。

コロナ禍においても、ユダヤ人と出会う機会が与えられて、福音をお伝えすることが出来ますよう心からお祈り致します。



☆テレジンの絵は語り続ける☆



(1994年、野村路子さんと)

7月、NHK-Eテレ「こころの時代～宗教・人生～」の番組で、「テレジンを語りつぐ会」の野村路子さんの再放送がありました。

『こころの時代～テレジンの絵は語りつづける～』は、野村路子さんが、1989年にプラハの街で偶然に、テレジン強制収容所で描いた子どもたちの絵と出会った日から今日まで30年の軌跡を描いたものでした。

番組を見て改めて、神様の摂理を覚え、心から感謝致しました。

1989年、野村路子さんは、チェコのプラハにあるテレジン強制収容所を訪れ、ユダヤ博物館でテレジン強制収容所の子どもたちが描いた絵と出会いました。そして1990年11月、野村路子さんは、イスラエルのキブツ・ギバット・ハイムにある「テレジンの家」を訪問し、テレジン収容所からの生還者であるビリー・グローアさんとアリサ・シラーさん、ディタ・ポラホヴァーさんと出会い、その後、「15000人のアンネ・フランク～テレジン収容所に残された4000枚の絵～」を出版。

「テレジンの小さな画家たち」展を開催。テレビ番組でも取り上げられるようになりました。

私（宮本純子）が、イスラエルのキブツ・マーニットに滞在し、ビリー・グローアさんと初めて出会ったのは、1990年3月のことでした。「テレジンの家」も訪問しました。今から30年前になります。



(1992年、ビリーさん夫妻と)

1942年、ビリー・グロアーさんは、28歳の時にテレジン収容所に送られました。テレジンには、哲学者や文学者、音楽家、画家など国内外に知られたユダヤ人が大勢いました。“テレジン収容所では、ユダヤ人は恵まれた環境の中で安穩に暮らしています。”と、偽りのPRプロパガンダをナチスが指示していました。ヒットラーの“最終計画”が完遂するまで、できる限り平穩に、無事に抵抗や反乱をおさえて収容所を存続させねばならなかったのです。そのためには、画家や音楽家たちを、協議会の主要メンバーにして、収容所の治安を守るために、絵や演奏を外部に向けての偽りの証言として役立てる必要があったのです。



(1994年、テレジンを訪問)

ビリー・グロアーさんは、テレジンでは“女の子の家”で子どもたちの世話係をしていました。チェコ国内から収容された子どもは、全部で1万5000人。解放の日を迎えて生き残った子どもは、100人。孤独、飢え、疲れ、辛い日々の中で、毎日、大勢の人が“東（アウシュビッツ）へ”送られて二度と戻ることはなかったのです。「なんとかして子どもたちに、子どもらしい時間を持たせてあげよう、人間としての尊厳を守り続けさせたいと願いました。そこで、一日の激

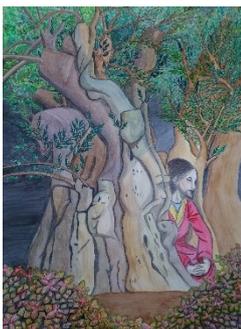
しい労働で疲れていたけれど、ドイツ兵に内緒で子どもたちに絵を描かせました。もしドイツ兵に見つかれば罰せられるので、見つからないように、何も無いところから、必死で紙もクレヨンも集めました。折れたクレヨン、残り少ない絵の具、使い古しの筆、切れ端の紙。・・・画家のフリードル・ディッカーは、子どもの持っている想像力を生かそうと懸命に絵を教えました。心が自由になれば、元来持っている想像力が動き始めます。それぞれの子どもの個性を伸ばし、その子に合った絵を自由に描けるようにしてあげるとというのが彼女の考え方でした。」と、ビリー・グロアーさんは話してくれました。

テレジンが解放され、ビリー・グロアーさんは、子どもたちが描いた絵4000枚を大きなトランク2つに入れて、プラハのユダヤ人協会に届け、預けました。子どもたちの絵は、子どもたちが生きた証し。

テレジンの子どもの絵が、この日本でも野村路子さんによって、本や展覧会、小6の国語の教科書にも取り上げられ、テレビでも紹介され語り続けられているのです。30年間も信念をもって、活動を続け、励んでおられる姿に心から敬意を表します。

今年は、終戦75年。戦争の悲惨さだけでなく、悲惨な時代の中で生きた子どもたちの《生きる力》にふれ、悲惨な境遇の中でも、子どもたちの笑顔を守り続けた大人たちの姿勢を知っていただきと切に願います。今、コロナという試練の中にあります。フリードル・ディッカー先生が子どもたちに生きる希望を持たせようと絵を描かせたように、私もそのように生きる者でありたいと神様に祈ります。

☆聖地画展 開催のお知らせ☆



去る6月7日「シャローム・コンサート」を開催予定でしたが、コロナ禍で会場が閉鎖されて使用できず、動画配信もすべて中止となり、本当に残念でした。

コロナ禍の中、伝道に用いられるようにと、絵を一生懸命に描き続けました。今秋、長年の夢であり、目標であった「聖地画展」を開催します。

「聖地画展」の案内を同封させて頂きます。お近くの方はぜひ絵に会いにいらしてください。「聖地画展」が伝道の良い機会となりますようにお祈りください。

☆祈りのリクエスト☆

「エルサレムの平和のために祈れ。『おまえを愛する人々が栄えるように。おまえの城壁のうちには、平和があるように。おまえの宮殿のうちには、繁栄があるように。』」(詩篇 122:6~7)



☆神様の深遠なるご計画の中で特別に選ばれ、愛されているユダヤ民族、平和の町であるエルサレム、イスラエルの平和が守られ、神様の計画と御心が成りますように。

☆イスラエルの国政、国内情勢のためにお祈りください。

☆世界中の政治的指導者たちが、神様からの正しい知恵と判断力が与えられ、神様の御心に従って政治を進める事が出来ますように。

☆11月のアメリカ大統領選挙でトランプ大統領が再選されるように。

☆新型コロナウイルスの感染拡大が世界中から一刻も早く収束しますように。コロナ禍の中で、イエス様を信じて救われる魂が世界中で多く起こされますように。神様のご介入と助けを切に祈り求めます。

☆コロナ禍でも伝道する機会が与えられますように。

☆世界中のユダヤ人に福音が伝えられ、イエス様を信じて救われますように。

☆イエス様を信じているメシアニック・ジューの一人一人の信仰を強めてくださり、イスラエルがリバイバルされますように。

☆在日ユダヤ人や訪日ユダヤ人にトラクトも用いられ、多くのユダヤ人がこの日本で、イエス・キリストに出会い救われますように。その為に私達が情熱を持って、神様の愛でおもてなしをし、伝道する事が出来ますように用いて下さい。又、ユダヤ人伝道の重荷を持つ後継者たちが起こされますように。

☆日本のクリスチャンの霊的な目が開かれてユダヤ人伝道について正しく理解し、イスラエルの回復のために神様の御心に従って祈っていくことが出来ますように。

☆ユダヤ新年5781年 秋のユダヤの祭り☆



☆9月18日~20日 ロシュ・ハシャナー (新年、ラッパの祭り)

ティシュレ月1日。ユダヤ暦新年は西暦の9月から始まる。

今年は、ユダヤ暦5781年を迎えます。ティシュレ月1日。神様が天地創造を行なったことを記念。新年を祝い、魚のお頭や「甘い年となりますように。」と、林檎にハチミツをかけて食する。

☆9月27日~28日 ヨム・キプール (大贖罪日)

ユダヤ教徒は新年ロシュ・ハシャナーから10日間懺悔をし、10日目のヨム・キプールは断食をして一年間の罪を悔い改める。イスラエルで最も重要な日で全ての施設が休み。

☆10月2日~9日 スコット (仮庵の祭り)

イスラエルの民が出エジプト後8日間仮庵住まいだったことを偲ぶため、仮庵を建てて食事をする。秋の収穫を祝う意味もある。初日のみ全ての施設が休み。

☆10月10日 シムハット・トーラー (律法の歓喜祭)

ユダヤ人は毎週1節ずつトーラー (モーセ五書) を読み、1年間で読了する。次年度また創世記から読み始めるにあたり、トーラーを与えてくださった神様に感謝し、読了を祝う。

2020年9月秋号発行 (季刊誌)